

地域医療により大きく貢献!!

# いのち、 痛みに全力

FUKUOKA WAJIRO HOSPITAL

VOL. 38

2016 / January

## CONTENTS

- ❶ 院長 新年の挨拶
- ❷ 診療部長新年のご挨拶
- ❸ 新入職医師・専修医のご紹介
- ❹ 院内教育・研修・がん表彰式・九州 山口看護セミナー
- ❺ カンボジア研修
- ❻ 院内旅行
- ❼ 医療連携室だより
- ❽ トピックス
- ❾ みんなで予防！インフルエンザ

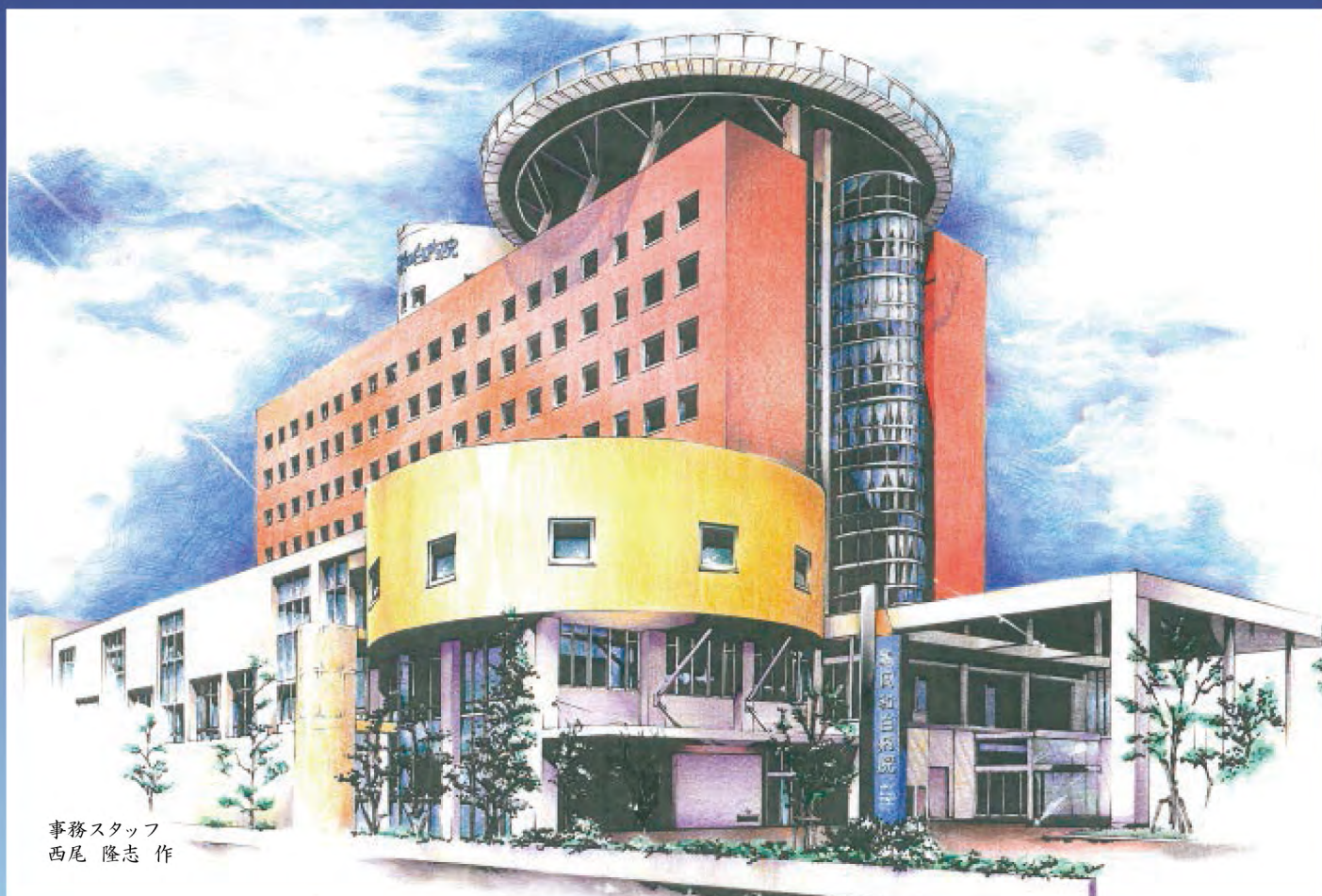
社会医療法人財団 池友会 福岡和白病院

### 基本理念

手には技術  
頭には知識  
患者様には愛を

### 基本方針

- 1. 高度医療 学問的に高い水準の医療を提供します。  
そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。
- 2. チーム医療 患者さまの目線に立った安全で安心できるチーム医療を提供すべく、急性期医療から、早期リハビリ、退院支援までニーズに沿った医療を提供します。
- 3. 地域医療 いつでもだれでも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域の中核病院を目指し、地域の医療施設・福祉施設と密接な連携を推進します。



事務スタッフ  
西尾 隆志 作

# 新年の挨拶

福岡和白病院 院長 富永 隆治



●富永 隆治（とみなが りゅうじ）／昭和 50 年、九州大学医学部卒業／昭和 50 年、九州大学医学部付属病院・心臓外科入局／昭和 57 年、国立療養所福岡東病院・医師（外科）／昭和 58 年、松山赤十字病院・医師（心臓血管外科）／昭和 62 年、アメリカ クリーブランドクリニック研究所・留学／平成 5 年、国立中央病院・心臓血管外科医長／平成 6 年、九州大学医学部心臓血管研究施設外科部門・助教授／平成 13 年、北九州市立医療センター・心臓血管外科部長／平成 16 年、九州医療センター・心臓血管外科医長・循環器センター長／平成 17 年、九州大学大学院医学研究科教授（循環器科学）／平成 20 年、九州大学病院・副病院長／平成 27 年 4 月から現職

新年明けましておめでとうございます。昨年は大変お世話になりました。

福岡和白病院は現在地に移ってから節目の 10 年を迎えます。福岡和白総合健診クリニックになっている旧病院時代から数えると 28 年間、蒲池真澄理事長の理念の元、地域住民の健康を守るべく 24 時間 365 日体制で、休みなく診療を続けてまいりました。お蔭様で、昨年地域医療支援病院の指定を受けることができました。これも偏に地域住民の方々

や医療関係者の方々のご支持を頂いているからと深く感謝申し上げます。福岡和白病院はこれまでどおり、救急病院として診療を続けていく所存ですが、同時により高度な医療を目指してまいります。昨今、増加の一途をたどっているがんに対する診療がその一つです。今年には福岡和白 PET 画像診断クリニックに、最新の機器が導入され、これまでに以上に迅速確実な診断ができるようになります。福岡和白総合健診クリニックで

もカプセル内視鏡の導入や消化管内視鏡検査室の拡充がなされ、消化器がんのより早期の発見が可能になります。また最新の放射線治療機器の導入も行いますし、昨年発足した外来化学療法センターの拡充も行っています。何よりも力を入れます。たいのは内科・外科・放射線科といった診療科の垣根を越えたがん治療チームの育成・強化であります。患者様を中心に各科の医師が集まり、最善の治療を討議・決定します。これまで以上

にレベルの高い医療が期待されます。循環器系では TAVI（Transcatheter Aortic Valve Implantation）治療を導入します。これは急増する高齢者の大動脈弁狭窄症に対して人工心臓という侵襲的な手段を必要とせず、カテーテルを用いて大動脈弁に人工弁を植え込むというもので、実現すれば福岡市内では九州大学病院に続いて 2 番目の施設になります。

高騰する医療費、急速に

進む高齢化社会、医療の安全性に対する患者様の意識変化等々があり、医療制度も大きく変化しています。

昨年 10 月から開始された医療事故調査制度、医師と看護師の中間職種創設にむけた保助看法改正、来年からスタートする新専門医制度、2025 年問題を見据えた病床機能報告制度、地域の医療をその地域で完結させる地域包括ケアシステム等々、枚挙に暇がありません。福岡和白病院として、九州大学病院を始め県内及び佐賀の 5 大学病院、地域の医療機関との連携を強め、これらの問題に正面から取り組みんでまいります。本年も宜しくお願い致します。

## 大動脈弁狭窄症とは？

心臓の大動脈弁が硬くなり、開きにくなる「大動脈弁狭窄症」。重症になると、突然死に至ることもあります。

大動脈弁狭窄症とは心臓弁膜症のひとつで、大動脈弁の開きが悪くなり、血液の流れが妨げられてしまう疾患です。

軽度のうちはほとんどが自覚症状がありませんが、症状が進むと動悸や息切れ、疲れやすさなどの症状が現れ、重症になると失神や突然死に至る可能性もあります。

### 大動脈弁狭窄症とは？

大動脈弁狭窄症は、聴診とエコー（体外から超音波で心臓を観察する方法）によって診断されますが、息切れや動悸、疲れやすさなどの症状が徐々に進行するため自覚しにくいのが現状です。

胸痛や失神などの重い症状が出て初めて自覚したり、心不全と診断され入院後に発覚される場合や、検診時の聴診で心雑音を指摘されて見つかることもあります。

大動脈弁狭窄症は、はじめは弁という一部分の病気ですが、進行すると心筋（心臓を動かす筋肉）という心臓全体の病気になります。そのような状態になると、いくら一部分である弁を取り換えても心筋の障害は回復せず、心臓は元通り動くことができなくなります。

大動脈弁狭窄症は自然に治ることはないので、心筋の障害が進行する前に早期の診断と治療をすることが非常に大切です。

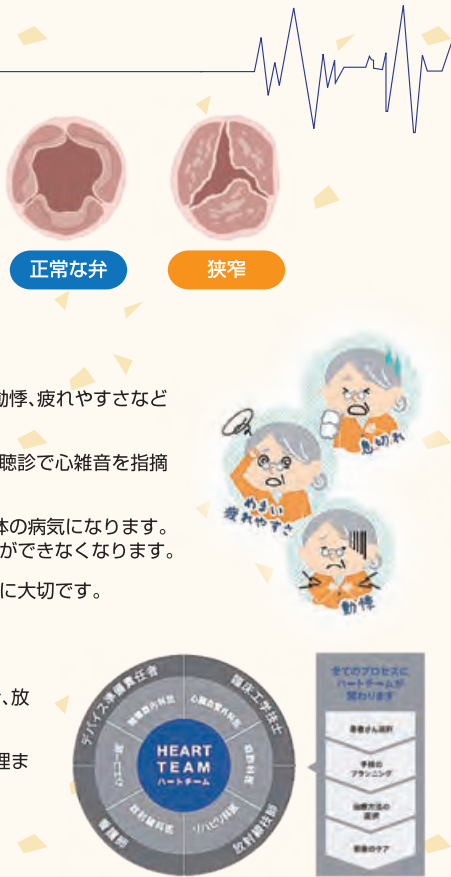
### TAVI のプロセス

TAVI 治療を行うにあたって、循環器内科医、心臓血管外科医、麻酔科医、心エコー医、および看護師、理学療法士、放射線技師、臨床工学技士などのコメディカルが協力して治療にあたる「ハートチーム」が結成されます。

診療科の垣根を越えて、それぞれの専門分野の知識や経験により、患者さんに一番良い治療を選択し、術後管理までその全てのプロセスを「ハートチーム」で行います。

### TAVI のメリット

- 新しい選択網**  
ご高齢のため体力が低下している、もしくはその他の疾患などのリスクを持っているなど、外科的治療ができなかった患者さんにとって、新しい治療の選択網となります。
- 体への負担が少ない**  
開胸することなく、また心臓も止めることなく、カテーテルを使って人工弁を患者さんの心臓に留置しますので、患者さんの体への負担が少ないのが特長です。
- QOL（生活の質）が向上**  
手技時間と入院期間が短いため、患者さんの比較的早い社会復帰が期待できます。



# 診療部長 新年のご挨拶



脳神経センター長 福山 幸三



脳神経外科専門医6名、専攻医3名体制で、血行再建、動脈瘤、脳腫瘍を中心に、脳・脊髄・神経系の疾患に広く対応します。手術、血管内治療、ガンマナイフを駆使し、患者様と話し合いながら、最善の標準的治療を選択します。

外科部長(医局長) 田原 正宏



新年あけましておめでとうございます。本年も、24時間365日の救急及び緊急手術の体制を維持し、地域の皆様が「和白病院に行けば、良い治療を受けることができる」、近隣の先生方や病院から「何かあれば和白病院へ」と信頼と安心をいただけるよう、全力を尽くして診療にあたる所存です。

HNVCセンター長 岡崎 幸生



地域の皆様の安心で健やかな日々を心から祈念しております。厳しい状況であっても、絶対に諦めず怯まず、心臓・脳・血管センタースタッフ一同、チームワークで365日24時間、地域の皆様の医療に取り組みます。本年もご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。

統括副院長 齋藤 太郎



明けましておめでとうございます。今年の干支は申に移りました。申の占いの五行では“金”、陰陽では“陽”を表すのだそうです。皆様が明るく元気に活躍できる年になるように希望します。とはいえ、病院の様な組織においては日々問題山積です。一方で病院の中にはたくさんの方の知恵と経験があります。問題点を共有し知恵を出し合えば進歩になります。足元を踏みしめながら、ジャンプして下さい。

総院長 兼 統括外科主任部長 藤田 博正



明けましておめでとうございます。当院は地域の中核病院として救急診療からがん診療へとウィングを広げられました。がん診療では従来の外科中心から腫瘍内科、放射線治療部、総合診療科を充実させ、頻りにカンファレンスを行い、がん診療に携わる職員が一丸となったチーム医療でレベルアップを図る所存です。

整形外科部長 半仁田 勉



新年あけましておめでとうございます。整形外科では今年も、四肢外傷・関節疾患等の患者様に満足していただけよう今年も全力で取り組んでいきます。関連病院や地域の他施設との連携も深め定期的に情報交換を行い、皆で向上心をもって頑張っていく所存です。

ガンマナイフセンター長 高木 勝至



旧年中はガンマナイフ治療をご理解、ご協力頂き、誠にありがとうございます。平成7年に全国で14番目に治療を開始し、7,200例を超える患者様を治療させて頂きました。特に平成23年に最新の治療装置(PERFEXION)を導入し、より治療効果に優れ、副作用の少ない治療が可能になりました。今年も安全で満足できる治療に努める所存です。

脳神経センター 脳血管外科部長 原田 啓



脳梗塞急性期のtPA静注療法と血管内血行再建術、脳動脈瘤の血管内塞栓術は標準治療となってきました。福岡東部地区の脳血管障害の拠点として、リスクコントロールはかりつけで、フォローの特殊検査やイベント時の対応を当院で行う方向性を確立するよう努めたいと思います。

総合診療科部長 馬場 健吉



新年あけましておめでとうございます。総合診療科では何科にかかったら良いかわからない患者様の初期診療を行っています。また、検診異常やがん疑いの方の診療も行っており、当院の最新の検査機器を用いて、正確な診断を行うようにしています。日々努力しながら、地域の皆様のニーズにあった診療科として、成長していきたいと思っています。

糖尿病センター長 石井 正夫



明けましておめでとうございます。当院は急性期医療を主体に「地域医療支援病院」として、患者様に質の高い医療を提供する事を目標としています。急性期疾患で入院された糖尿病の方へ診療介入・サポートがとても重要で、患者様が安心して治療を受けられるように体制を充実させようと思います。今年も宜しく御願致します。

内科主任部長 田口 文博



新年明けましておめでとうございます。当科は、ERを窓口とする急性期疾患から糖尿病、悪性腫瘍等の慢性疾患に至るまで多数の患者様を担当させていただいております。昨年は腫瘍内科が新設されたほか、新たに樋口医師、木下医師を迎えることができました。一方、来年から導入される新・内科専門医制度に向けて準備中です。患者様やご紹介いただく近隣の先生方のみならず、研修医にも満足頂ける内科を目指します。

乳腺外科部長 久保田 博文



あけましておめでとうございます。乳腺外科は、乳癌を中心に乳腺疾患を扱う診療科です。自覚症状のある患者様や検診で要精査となった患者様に対する診断や治療を担当しています。昨年はタレントさんの乳癌報道により多数の患者様が受診されましたが、単なるブームではなく、検診受診率の向上に繋がればと思っています。

リウマチ・関節センター長 林 和生



画期的な運動療法プログラムを取り入れ初診前に他の病院で手術と言われた患者さんの多くが手術の回避・延期が可能になりました。常に本当に必要な手術かどうかを適切に判断し、本プログラムでも改善しない真の難治例に手術を行う場合は術前リハビリを行うことでよりよい予後(術後早期の杖なし歩行)を追求します。

脊髄脊椎外科部長 井上 崇文



整形外科でも脳神経外科でもない脊髄脊椎外科として着任から10年区切りの年になりました。手術症例はゆうに1,000例を超えましたが、これまでを振り返り手術症例に限らず、よかったところは伸ばし、足りなかったことは改めて真摯に患者様に向き合い、今後も地域の皆様に貢献できますよう頑張っていく所存です。

腎臓内科部長 長野 善朗



新年明けましておめでとうございます。慢性腎臓病の患者様は毎年増加しており全国の血液透析の患者様は33万人を超えそうな勢いです。慢性腎臓病は健康診断の検尿で早期診断が可能ですので早めに受診して頂ければ確定診断及び加療が開始できます。透析に至る患者様を少しでも減らせるように今後も努力していきたいと思っています。

循環器内科部長 野口 博生



昨年も順調に循環器診療を遂行することが出来ました。関連病院の先生方には大変お世話になり、感謝と御礼を申し上げます。不整脈診療に関しては、専門資格を持った臨床工学技士や、放射線技師の協力もあり、アブレーション治療も増えてきました。ますます充実した不整脈診療と地域医療連携を今年も行っていきたいと思っています。

循環器内科部長 大塚 頼隆



明けましておめでとうございます。様々な心臓病に対して、今年も開業医の先生方と連携しながら、患者様に満足いく最高の医療を提供できるように頑張ります。今年は経皮的動脈弁置換術の施設認定に向けて努力し、最新医療を安全に提供できるようスタッフ一同頑張っております。今年もよろしくお願い致します。



## 新入職医師・専修医のご紹介

昨年10月に赴任致しました。内視鏡室では連日午前、午後ともに上下部内視鏡検査を行い、症状につながる病変診断や、癌の発見に努めております。ここ10年で内視鏡治療ができる癌の範囲も広がっており、当科で治療が完結できるように早期診断、早期治療を目指し頑張りたいと思います。

また、消化管出血に対する止血術、異物誤飲時の摘出、急性胆管炎や胆石性膵炎に対する緊急ERCP等、ERから要請のある緊急処置にも対応しております。消化管疾患についてお気軽にご相談ください。

内科

木下 展克

きのした・のぶかつ

秋田大学卒



資格 日本内科学会認定内科医／日本消化器病学会消化器病専門医／日本消化器内視鏡学会専門医



眼科

中村 悠花子

なかむら・ゆかこ

福岡大学卒

患者様の訴えに耳を傾け、改善を目指します。何かありましたら、お気軽にご相談下さい。



麻酔科

佐藤 ゆみ子

さとう・ゆみこ

筑波大学卒

資格 麻酔科標榜医／日本麻酔科学会指導医・専門医／インфекションコントロールドクター

地域の皆さまが、安心して安全に手術を受けられるように、麻酔科医として頑張ります。



麻酔科

佐藤 浩三

さとう・こうそう

筑波大学卒

資格 麻酔科標榜医／日本麻酔科学会指導医・専門医／インфекションコントロールドクター／WISERシミュレーションセンターディレクター

麻酔科医として安心安全な手術を提供できるように心を配ります。地域の皆さま宜しくお願い致します。

泌尿器科部長 吉永 英俊



あけましておめでとうございます。当科は平成27年4月より吉田毅医師を迎え、二人体制となりました。排尿障害手術、尿路悪性腫瘍手術に加えて、尿路結石手術も開始しました。頻尿・尿失禁治療などの生活の質の向上、経尿道的手術や腹腔鏡手術による低侵襲治療など地域の医療に貢献していきたいと思ひます。

ER副部長 白馬 雄士



当院は平成26年に地域医療支援病院の指定を受け、昨年は紹介件数、救急搬入件数ともに増加致しました。年々増加するニーズにお応えすべく、救急医療に更なる充実を図っています。地域医療支援病院として、開業医の先生方や医療機関のみならず救急隊や医療福祉サービスとも連携し、地域全体への安心と安全の提供を目指します。

呼吸器外科部長 吉松 隆



肺癌、気胸、縦隔腫瘍、膿胸など呼吸器外科疾患の診療、手術などの臨床面での医療レベルの向上はもとより、研究・学会活動も積極的に行うことにより、技術、知識、そして、愛のある医療を目指して、今年も全力を尽くしていく所存です。

麻酔科部長 富永 昌宗



新年のご挨拶申し上げます。昨年も3,000例を超える症例の手術が行われました。手術室は1室増え6室になりました。昨年10月に佐藤浩三、佐藤ゆみ子両先生(日本麻酔科学会認定麻酔指導医)を迎えマンパワーも充実してきました。重症症例も増える中、安全な麻酔を提供できるようにスタッフ一同頑張ります。

放射線診断・治療センター部長 上野 雅子



当センターでは、画像診断、放射線治療、塞栓止血術等の血管内治療を行っています。常勤医が増え、新しい撮影装置も導入されました。患者様方へより質の高い医療を提供できるようスタッフ一同尽力させて頂く所存でございます。どうぞ宜しくお願い致します。

化学療法センター長 柴田 義宏



救急のみならず、がん治療にも力を入れていくという当院の方針にて、2015年4月より腫瘍内科として赴任させていただきました。7月より外来化学療法センターを増床し開設致しました。快適な空間で、QOL(生活の質)を保って外来化学療法ができるようにスタッフ一同頑張っております。

眼科部長 小山田 剛



新年明けましておめでとうございます。現職について5年になりました。白内障を中心に加齢黄斑変性症の治療や硝子体手術も行っております。地域医療のためによりよい医療を提供できるようスタッフと共に日々精進して参ります。本年も宜しくお願いします。

病理診断科主任部長 中野 龍治

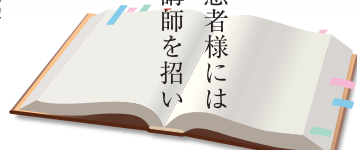


新年明けましておめでとうございます。昨年4月に当院に赴任して以来、病理診断という形で各診療科の下支えをしております。当科には病理専門医が2名いますが、これは市中病院としては全国的にも極めて稀少です。その利を生かし、臨床医との意見交換を活発にして、今後も当院の診療の質の更なる向上に寄与して参ります。



## 院内教育・研修

病院理念の「手には技術・頭には知識・患者様には愛」に基づき、院外への研修参加・外部講師を招いての院内教育を定期的に行っています。



平成27年11月30日  
クリフランドクリニック ラーナー医科大学  
教授 深町 清隆 先生

「アメリカに於ける人工心臓開発の現状と将来の展望」

平成27年12月2日

九州大学医学部病態修復内科

教授 赤司 浩一 先生

九州大学医学部病態修復内科学

准教授 小田代 敬太 先生

九州大学医学部研究施設伝子細胞療法部

助教 國崎 祐哉 先生

「九州大学医学部 第一内科による研究・臨床の進歩」

また、今回関連病院合同での管理者研修会を実施致しました。

病院経営支援機構 企画部長 池田 周一様

「高度急性期病院から見た地域医療構想を考える」

その他にも当グループの将来のリー

ダー育成するために、医療技術部・事

務部を対象とした医療医学に関する

教育試験を実施致しました。

教育試験終了後は、専門医師によ

る講義を実施し、更なる医学的知

識を身につけ日々の業務に努めていきます。



## がん表彰式

平成27年12月2日(水)福岡県庁にて福岡県から「ふくおか共助社会づくり表彰」をいただきました。

この表彰は、NPO・ボランティアと企業や行政など

が各分野・立場から協働で社会貢

献活動をした取組みに対して贈ら

れる表彰になります。当院は、

NPO法人キャンサーサポートと

の協働の取組みで「未来ある子ども

達に伝えたいがん教育プロジェクト

」の活動を行っております。平成

27年11月現在で小学校17校、中学校

11校、高校7校の合計7706名の

生徒さんに実施してきました。

また、表彰式では富永院長も参加さ

れ、小川県知事と同級生ということ

もあり、笑いを交えながらも「がん

は決して他人事ではありません。小

さい頃からの教育はとても大切な

為、これからも子ども達の為に活動

を頑張ってください」と

励ましのお言葉を頂き

ました。今後も質を下

げることなく、活動を

継続してまいりますので

これからも応援宜しく

お願い致します。



## 第11回 九州山口 看護セミナー

平成27年12月4日・5日に第11回九州山口救急救命看護セミナーを当院にて開催しました。

救急救命を通して看護観、人間理

解を深めることを目的とし、内科・

外科医療に加え、脳・心臓外科等の専門的医療など、

救急医療に関してあらゆる視点で構成したセミナー

であり、救急医療を担うナースのキャリア形成の場と

して毎年開催しています。今回は診療看護師として九

州医療センターで活躍されている方をお招きし講演し

て頂きました。

参加人数86名で、地域の看護師の皆様にもご参加いた

だき、大盛況のうちに終了しました。これからも地域

医療支援病院として様々な分野でのセミナーや講演

会を企画し、地域全体の「看護力の向上」に尽力してい

きたいと思えます。



## カンボジア 研修 Cambodia



12月15日から22日までの1週間、カンボジアのアンコール小児病院で研修をさせていただきました。

研修内容としては手術見学と訪問診療がメインでした。

手術は鼠径ヘルニア、停流精巣、熱傷、外傷など多岐にわたっており、症例数も1日10件以上と豊富だったのですが、手術室が1部屋しかなく、すべての手術を1部屋で数少ない医師で行って

りました。検査もレントゲンしかなく

少ない情報の中、手術をやらざるを得

ないのが現状でした。

訪問診療で尋ねた患者の家は、車で片

道2時間ほどかかり、道もしっかりで

きていないような場所にありました。

衛生面は悪く、子供の服も食事もま

もに用意できない環境で生活している

ことに衝撃を受けました。

そのような環境下でも、自分たちが尋

ねると子供たちは笑顔で手を振って

くれたのは印象的でした。

貧しい国の医療資源が少ない中での医

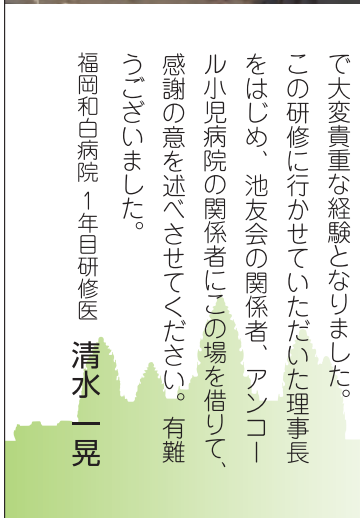
療や、車で片道2時間必要な訪問診療

を受けるしか選択肢のない患者さん

など、多くの症例を経験させていただきました。

現在の日本の医療の恵まれた環境を再

認識することができました。



福岡和白病院 1年目研修医 清水 一晃

## 院内旅行の思い出 Memories of Travel

## 東京ディズニーリゾート

東京ディズニーランド2泊3日の旅行に参加させて頂きました。今回、東京を選んだ理由は関東へ転勤している同期スタッフと合流し、一緒に旅行する為です。会うのは久しぶりだったのですが、再会してすぐに以前と同じような感覚で旅行を楽しむことができました。今後も同期で協力しながら仕事に取り組んでいきます。



リハビリテーション科 義原 弥生

## シンガポール

今年の院内旅行は看護師スタッフと共にシンガポールへ行きました。3日間晴天にも恵まれ有名な観光名所巡り、ショッピング、食事など充実した旅行となり、リフレッシュすることができました。また機会があれば行ってみたいです。



ICU 末永 友美

患者さまが安心して生活できる医療環境となるよう全力でサポート致します。

# 医療連携室だより

わが町のホームドクター紹介

## 医療法人 竹村医院

診療科 内科・小児科・胃腸科・消化器科

■住 所:糟屋郡新宮町下府5-12-8 ■院 長:竹村 聡

■電 話:092-962-0846 ■FAX:092-962-3524

| 診療時間        | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-------------|---|---|---|---|---|---|
| 8:30~12:30  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 13:30~18:00 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

※金曜日の午後外来は、訪問診療のため休診となっております。  
※ワクチン接種の受付時間は、月・火・水・木の午後17:00までとなっております。  
※休診 日曜・祝日

### 院長より一言

昨年11月から新築移転しました。新しいクリニックは、木の香りや温もりが感じられ、病んでいる方々に少しでも癒しを感じられるような雰囲気になりました。わたしどもの医院は、小さなお子さんからご年配の方まで診させて頂いています。患者さんに優しいクリニックを目指して患者さんと同じ目線で診療しております。診療上、ご不明な点、疑問な点がありましたら些細な事でもお答えいたしますので、遠慮なくお尋ねください。なおわたしは胃腸疾患が専門ですので、胃および大腸内視鏡検査、腹部エコー検査も実施し訪問診療や往診にも従事しております。

## かかりつけ医をお持ちですか?

### 福岡和白病院の役割

#### 高度急性期病院としての役割

重症患者の受け入れ体制の充実を図り、緊急対応や高度な精密検査が必要な患者様など、地域の医療機関からの紹介があれば迅速に対応できる体制を整えています。

##### ① 24時間365日体制での救急医療

「ER救急センター」では、緊急・重症な状態にある方に対し、高度で専門的な医療を24時間体制で提供しています。

##### ② 手術、入院、専門医療の提供

良質で安心できる医療サービスを提供できるよう、高い技術を習得した専門医や専門性の高い看護師が治療に努めています。

#### 地域医療支援病院としての役割

地域医療支援病院とは、地域の「かかりつけ医」と連携し役割を分担しながら、患者様へより質の高い専門的医療、救急医療を提供する病院です。

##### ① 地域の病院や診療所の支援

詳しい検査や入院、手術などの専門的な医療が必要と判断された患者様を「かかりつけ医」からご紹介いただく診療致します。

##### ② 地域医療の充実化

医療や介護に従事する人達を対象にした研修会や学習会を行い、住人が安心して暮らすことのできる地域づくりをする役割を担っています。

#### 急性期治療の後は

患者様の状態に合わせて適切な医療を受けて頂けるよう、他の病院や診療所をご紹介いたします。

##### ■ ご自宅へ退院された後の通院治療は「かかりつけ医」へ

急性期治療が終わり、症状が安定したら、「かかりつけ医」に再び通院していただくようご紹介させていただきます。

##### ■ まだ入院が必要な時は「専門の病院」へ

当院の近隣エリアには、連携の取れた回復期リハビリテーション病院や療養病院など、それぞれの特徴を活かした医療機関があります。

現在、当院では「かかりつけ医を持ちましょう」というパンフレットを作成しています。かかりつけ医は、皆様の身近な場所で日頃の健康管理を行ってくれます。また、かかりつけ医からの紹介状があれば、福岡和白病院での受診もスムーズになり、医療費の節約にもつながります。福岡和白病院は、高度急性期病院として、また地域医療支援病院として、開業医の先生方と連携を図り、適切な医療を提供していきます。切れ目のない診療のために、「かかりつけ医を持ちましょう」。



まずは「かかりつけ医」を持ちましょう。そこから、切れ目のない診療が可能になります。

#### 住民の皆さまへ

地域には頼れる専門家がたくさんいます。その支えを最大限に活用するために。

##### 日常の健康管理は「かかりつけ医」へ

日常の病気のことを気軽に相談できる「かかりつけ医」を持ちましょう。

##### 福岡和白病院へは「紹介状」を

福岡和白病院は、地域の医療機関と連携をはかりながら診療を行っていますので、「かかりつけ医」からの紹介状をご持参下さい。紹介状がない場合には、初診時保険外併用療養費(税込3,650円)のご負担がござります。

##### 安定してきたら「かかりつけ医」へ

専門的な治療が終わり症状が安定してきた場合は、「かかりつけ医」に再び通院していただくようご紹介させていただきます。

##### 夜間救急のかかり方にご理解下さい

近年、「平日・昼間は仕事がある」「昼間は混んでいる」との理由で、軽い症状でも休日や夜間に救急病院を受診する、いわゆる「コンビニ受診」が増え、重症患者の治療に支障をきたしています。救急センターは、いつでも診てもらえる便利な医療機関ではなく、必要な人が安心して救急医療を受けられるよう、適正な医療機関の受診や救急医療の利用に、ご協力をお願いします。



平成27年11月15日(日)今回で4回目となる『フリマみとま in 和白』が開催されました。当日はあいにくの雨模様により開催が危ぶまれる中、開始時間の10時に近づいた時、雨は止み、雲は晴れ、晴れやかな青空が広がってきました。天候にも恵まれ、約2,500名の方が来場され、子供たちによる出店のキッズフリマも笑顔あふれる大盛況となりました。

また、当院からは、朝に収穫したばかりのお野菜や手作り石鹸、TVモニターなどを販売し、無料健康チェックブースとしては動脈硬化測定、骨密度、血管年齢測定会の他、ドクターカー乗車体験等を実施致しました。子供から大人まで、地域の皆様のご協力を頂き、今後もこのようなイベントを随時計画しておりますので、皆様のご来場を職員一同心よりお待ちしております。

文責 医療連携室 山本

## フリマみとま in 和白

第4回



フリマみとま in 和白



第9回

## 地域医療支援病院運営委員会

平成27年10月21日に第9回地域医療支援病院運営委員会を開催致しました。

今回は特に、福岡市東区の奈多・西戸崎・志賀島など、高齢者率の高い地域からの当院受診者数や開業医からの紹介件数などを報告しました。福岡市東区医師会長の田村重彰先生や福岡市東区保健福祉センターの石井美栄先生からは、高齢者の多い地域も含め、近隣の開業医や介護事業者との会合を行ってくださいとのご意見を頂きました。

会の終了後は、当院医師と院外運営委員の方々と交流をされる様子も見られ、今後も連携の強化を図ってまいります。



ランとも

## RUN伴2015



10/31(土)に「RUN伴2015」というイベントがありました。RUN伴(ランとも)とは、認知症の人や家族、支援者、一般の人が少しずつフリレーをしながら、1つのタスクをつなぎ、ゴールを目指すイベントです。

この日は、当院をタスクの中継所として使用して頂きました。新宮方面から走ってこられた方は達成された喜びの表情でタスクを渡し、当院からスタートされた方は少し緊張した表情で次にタスクを届けに行かれました。地域の方もたくさん応援に来られ、当院も地域を支えられる病院として頑張っていきたいと思います。



## 【今後の研修・講演会予定】

| テーマ                                                                | 開催日                                            | 場 所              |
|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|------------------|
| 特別講演会<br>九州大学 大学院 臨床・腫瘍外科 中村雅史 教授<br>「21世紀の難治癌・肺癌 ～どう見つけ、どう治療するか～」 | 平成28年1月25日(月)19:00～20:00                       | 福岡和白病院<br>2階大会議室 |
| 地域医療研修会<br>「褥瘡の基礎知識」<br>について                                       | 平成28年1月26日(火)18:00～19:00                       | 福岡和白病院<br>2階大会議室 |
| 緩和ケア研修会                                                            | 平成28年1月30日(土)11:30～20:00<br>1月31日(日)8:45～17:40 | 福岡和白病院<br>2階大会議室 |

## 【昨年度大新年会にて】



▲挨拶をされる蒲池理事長 山永院長



▲万歳三唱の様子

## 【今後の行事予定】

| 行 事                 | 開催日                 | 場 所                  |
|---------------------|---------------------|----------------------|
| 福岡和白病院大新年会          | 平成28年1月22日(金)19:00～ | ヒルトン福岡<br>シーホーク      |
| アンコール小児病院開院17周年記念式典 | 平成28年1月30日(土)       | アンコール小児病院<br>(カンボジア) |

## みんなで予防！インフルエンザ

寒い日々が続いていますが、この時期注意しなければならないのが、インフルエンザとノロウイルスです。インフルエンザの流行のピークは1月から2月が最も多く、ノロウイルスは、年間を通して起こりますが、特に11月から2月が最も多いといわれています。小さなお子様や免疫力が低下している御高齢の方が感染すると重篤化することが多いため、日頃からの感染予防が重要になります。



## 【インフルエンザ・ノロウイルスを予防するためのポイント】

## POINT

01

外出後やトイレの後などにしっかり手を洗いましょう。インフルエンザに関してはアルコール製剤でも効果がありますが、ノロウイルスはアルコールに抵抗性がありますので、流水と石鹸による手洗いを行いましょう。



## POINT

02

交通機関を利用した際や、買い物先などの人混みで他者のくしゃみや咳から感染することもありますので、流行のピークが過ぎるまでは、外出する際にマスクを着用しましょう。



## POINT

03

免疫力の低下も感染の原因になりますので、栄養価の高い食事を摂り十分な睡眠をとるようにしましょう。



## POINT

04

ノロウイルスは二枚貝を摂取すると感染するといわれています。流行時期は摂取するのを控えましょう。また摂取する場合も生ではなく十分火を通してから摂取しましょう。



災害拠点病院 開放型病院 地域医療支援病院  
日本医療機能評価機構認定病院 基幹型臨床研修指定病院



日本医療機能評価機構

社会医療法人財団 池友会

福岡和白病院

福岡和白

検索

〒811-0213 福岡市東区和白丘2-2-75

TEL.092-608-0001(代)

E-mail:info@f-wajirohp.jp

ホームページ <http://www.f-wajirohp.jp>フェイスブック <http://www.facebook.com/wajiro>

ホームページ



フェイスブック